

「二月十一日」は、何の日ですか？

★一昨日の二月十一日は、「建国記念の日」としての国民の祝日でしたが、本当に全国民が祝える祝日なのでしょうか？

◆そもその二月十一日。戦前は「紀元節」と呼ばれ、初代天皇と考えられた「神武（じんむ）天皇」が即位したことを祝い、その子孫（天皇）による統治は永遠であると教えられてきた「天皇制」の出発の日です。

◆その根拠の「日本書紀」には、「辛酉（かのとり）年春正月一日（元旦）即位」と記されていますが、明治政府は、それを太陽暦に換算して「紀元前六六〇年二月十一日」と定めたのです（一八七三・明治六年）。

◆しかし、明治政府の説明どおりだとすると、紀元前六六〇年頃の日本は、縄文時代。文字や暦は勿論のこと、社会制度・階級もなく、ましてや天皇もない時。つまり天皇制は、まったくの「架空」から出発したのです。いわば「歴史の偽造」と言ってもよいのです。

・また明治政府の教えたことが正しいとすると、最初の頃の天皇の年齢がほとんどが百二〇歳くらいから最長命が百四〇歳を超えるという信じがたいもの。

◆しかし明治政府は、一八八九（明治二二）年に「大日本帝国憲法」を發布する日を「二月十一日」にしたり、天皇を現人神（あらひとがみ）として君臨させる国を推進するために、「二月十一日」を「紀元節」・「建国記念日」とし、国民を巻き込み、アジア諸国侵略へと突き進んでいたのです。

・さらに、それらを達成するための心の拠り所として、靖国神社に特別の位置を与え、戦地に赴く兵士に「靖国で会おう」との相言葉を言わせ、天皇に命を献げることこそ最大の価値と教えたのでした。

◆このように一昨日は、国民を忌（いま）まわしい戦争へと駆り立てた「旧・天皇制」原点の日であり、現憲法や平和を願う市民からは、決して心から祝うことが出来ない日なのです。

★確かに、国の出発を祝う原点の日があってもよいでしょうし、あるべきかもしれない。では、何時がふさわしいのでしょうか？

◆もし私たちが、日本の出発を祝うなら、私たちの国をこのようにた（建）てると決意した内容を文言にした現憲法が施行された「五月三日」です。

※即ち「国民主権・基本的人権・平和主義」を選びとり、実施し始めた日です！
このように「現憲法こそ、日本国の原点」です！

「二〇一一年二月十三日（日）第五二八回・憲法を守る平和行進」
| 浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十五 |
「二〇一一年二月十一日」